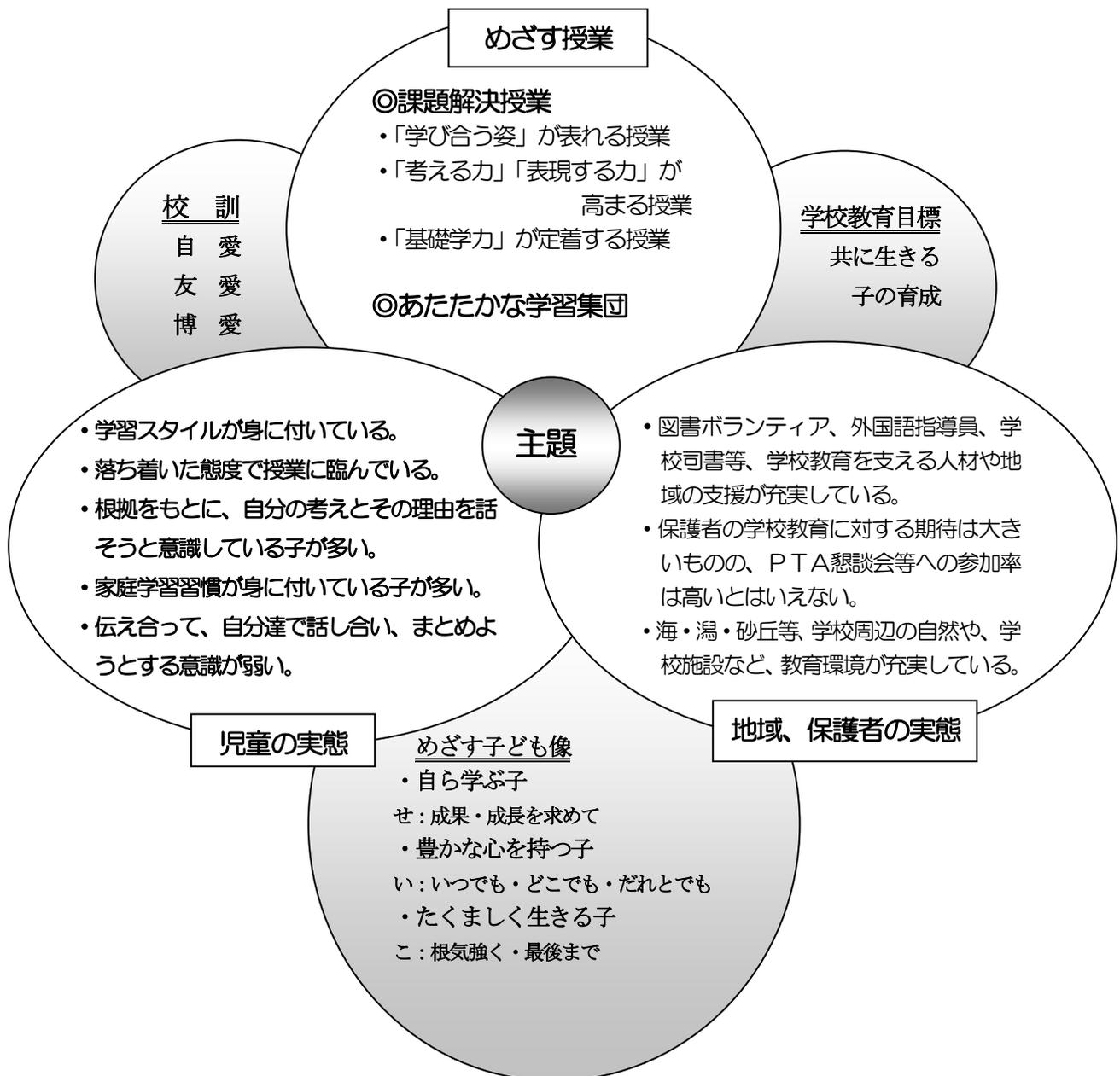


V. 現職教育

1. 研究主題

自ら考え、学び合う子をめざして
～「わかった、できた」と実感できる授業づくり～

2. 研究主題・副題設定の理由



本校が考える「自ら考え、学び合う子」とは、

「自ら考える子」…課題を見出し、既習事項やこれまでの経験を活かして、
課題の解決や達成に向けて考える子
「学び合う子」…考えたことを表現し合い、認め合うことで、
学びを深め、「わかった、できた」と実感できる子

である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子ども達、一人一人に獲得させたい。

本校では、平成19年度から令和元年度まで、研究主題を「自ら考え、追究する子をめざして」とし、追究する姿が見える授業づくりを目指してきた。平成30年度からは、副題を【「わかった、できた」と実感できる授業づくり】として、授業実践を積み重ねてきた。

「問題意識が高まる課題づくり」「根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫」【「わかった、できた」を実感するための場の設定】をすることで、児童一人一人に「わかった、できた」を実感させ、新たな追究意欲をもつ児童を育てたいと考え、研究に取り組んできた。その成果として、次の点が挙げられる。

(1) 問題意識が高まる課題づくり

どの教科でも、児童主体の課題づくりとなっていれば、問題意識が高まっていると言えた。また、教師と児童で単元計画を共有できていれば、児童は問題意識をもちながら主体的に学習を進めることができ、追究することにもつながった。

(2) 根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫

教師が意識して「これが根拠、これが理由だ」と児童に示し、それらを使って話す経験を積み重ねたことで、根拠をもとに考えを表現できる児童が増えてきた。教科の特性に応じて根拠となるアイテムやキーワード、教科の用語を指導し、積極的に使わせていくことで、児童は考えをもちやすくなり、話したり、書いたりすることができるようになった。

(3) 「わかった、できた」を実感するための場の設定

学習課題について個で考えをもち、それを全体で交流・解決し、その学びを活用して個で解決する場を設けたことで、児童は「わかった、できた」を実感し、教師は一人一人の児童が「わかったか、できたか」を評価することができた。

以上のことが成果として挙げられるが、児童一人一人が友達と学び合うことで、考えの深まりや良さに気付き、全員が「わかった、できた」と実感するには至らなかった。

そこで、今年度は研究主題を「自ら考え、学び合う子をめざして」とし、「児童同士の関わり」を意識しながら、児童が「わかった、できた」と実感できる授業づくりを積み重ねることで、主題に迫っていきたい。

3. 研究の仮説

授業者が、児童の問題意識が高まる問題の提示や発問を行うことで、児童自ら課題を見出し、考えの根拠、理由を話し合い、互いに認め合う中で学びを深め、「わかった、できた」と実感できるだろう。このように実感する児童は、新たな課題について「自ら考え、学び合う力」をつけていこう。

4. 研究の重点と具体的な取組

今年度も「わかった、できた」と実感させるために、以下の三点について取り組んでいく。

(1) 問題意識が高まる課題づくり

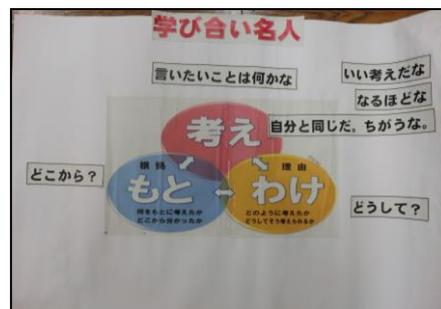
- ・付きたい力を明確にし、単元のゴールの姿がイメージできるようにモデルを提示し、児童と単元計画を共有する。
- ・課題は、多様な思考ができるもの、根拠や筋道が明確に表現できるもの、思考を深めることができるようなものにする。

付きたい力を明確にし、その力を付けるための学習課題や言語活動を設定する。単元のゴールの姿がイメージできれば、単元の学習の見通しをもち、単元計画や学習課題をつくることができるだろう。その際、**児童の「なぜだろう?」「どのようにするのかな?」「考えてみたい!」という思いを引き出し、全体でその思いに対して「確かにそうだな。」「~かもしれないな。」等、問題意識を共有できるようにする。**そのために、児童の思いを全体に広げたり、挙手させたりする。こうすることで、児童一人一人の問題意識を高め、課題に対して学び合えるようにしていきたい。

(2) 根拠をもとに筋道を立てて考えを表現させる指導の工夫

- ・児童に表出させたい「考え・根拠・理由」を授業者が明確にとらえる。
- ・表現をする際には、昨年度に引き続き「話し方名人」を継続して活用していく。また、**学び合う姿に迫るために「学び合い名人」を活用した指導を充実させる。**
 - 「話し方」…「考え・根拠・理由」を明確にさせる指導を行う。
 - 「聞き方」…**学び合うための聞き方の視点をもたせる指導を行う。**

考えを書く時、伝える時には、何をもとにして考えたのか「根拠」を示し、なぜそう考えられるのか「理由」を表現させることが必要である。このことが「なるほど!」「確かにそうだな。」という納得感を生む。しかし、児童の発言は、根拠や理由が不明確なものが多い。そこで、何を根拠、理由として考えさせ、ねらいにせまっていくのかを授業者が明確にして授業に臨むことで、児童の発言の不足している部分を発問や問い返しによって表現させることができる。**聞き手は、話し手の考えに対して、自分の考えと比較しながら共通点や違いを見出したり、考えの意図をとらえたりして、受け止めながら聞かせたい。**聞くことが学び合う姿につながっていくと考える。このような授業を積み重ねることで、児童同士で学び合い、「わかった、できた」と実感できるようにしたい。



(3) 「わかった、できた」を実感するための場の設定

- ・ねらいに合わせて、どんな力をどのように評価するのかを授業者が明確にしておく。
(中間評価、深めの発問等)
- ・学んだことを個で活用する場の設定 (問題を解く、まとめる、振り返る)

ねらいにせまるために、どんな力をどのように評価するのかを考えて、実践する。**課題について個で考え、それを児童同士で交流・解決し、その学びを活用して個で解決する場を設ける**ことで、児童は「わかった、できた」を実感し、教師は、一人一人の児童が「わかったか、できたか」を評価することができると思う。

5. 学力・学習を支える基盤、指導改善を進める体制をつくるための具体的取組

(1) 基礎的な学力・表現力の向上・定着を図る

① 朝学習を活用し、基礎学力の定着・習熟、課題の克服を図る

- ・8:10～8:20の10分間、担任の指導のもと、取り組む（職員朝礼がある月曜を除く）
- ・学習課題に取り組んだ後は、速やかに解答・解説をし、フィードバックを行う

曜日	内 容	
月	読 書	・読書
火	国語・算数	基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 （国語）漢字、ローマ字、ことわざ、四字熟語、作文、視写 など （算数）四則計算、比例数直線図にまとめる、作図 など 活用力向上のための課題 （学力向上プログラム、各学力調査過去問題等を活用）
水	国語・算数	基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 （国語）漢字、ローマ字、ことわざ、四字熟語、作文、視写 など （算数）四則計算、比例数直線図にまとめる、作図 など 活用力向上のための課題 （学力向上プログラム、各学力調査過去問題等を活用） 条件作文（月2回）
木	読 書	・読書 ・ALT、外国語指導教員による外国語の絵本や国際理解の本の読み聞かせ
金	英語	・外国語活動、外国語科での授業でのアクティビティ、チャンツの復習など ・映像教材の利用 ・エンカウンター要素を含んだ外国語でのゲーム活動

② 家庭との連携を深め、よりよい家庭学習習慣の定着を図る

- ・10分×学年（低学年は20分）の学習時間の定着を目指し、学習時間に見合う課題を工夫
- ・家庭学習・計算・漢字ステップアップ週間の設定
漢字（各学期1回）、計算（1・2学期 各1回）、それぞれ1週間ずつ全校一斉に設定
新出漢字の書き取り、基礎的な四則計算の繰り返し学習
1週間の家庭学習取組時間を記録して可視化
- ・学習日より「CATCHBALL」など家庭学習の参考になる資料の発行
- ・家庭学習の主体性を高め、学力の向上を図るための「自学ノート」指導の充実

③ 読書活動の充実を図る

- ・朝読書（毎週月曜・木曜）の設定
- ・図書室イベントの開催
- ・地域ボランティアによる「お話会」、外国語による読み聞かせ「イングリッシュ・タイム」
- ・家庭読書の日の設定（毎月23日のいしかわ学校読書の日、長期休業中の親子読書）

④ 校内到達度調査（令和元年度の結果）から児童の学力の定着状況をとらえ、弱点克服の取組を実施

- ・各学力調査の過去問題の活用（朝学習・家庭学習・単元末テスト）
- ・朝学習の計画的なプリント学習
弱点の補強、特に重要な学習内容の繰り返し学習、学力調査問題の活用

- ・到達目標に達していない児童への個別指導や補充授業（放課後・長期休業中 等）
- ・校内学習到達度調査（令和2年度）の実施により、活用力・表現力の伸長と指導改善を図る

⑤ ノート指導の充実

- ・ノートの書き方についての全校共通指導
- ・より良いノート作りのためのノート掲示（各学級・全校掲示板）

(2) 教師の指導力の向上を図る

① 授業研究の実施

- ・研究授業には外部講師を招聘。研究の重点を中心に協議を行う
- ・授業整理会後の成果と課題を朝礼等で即共有し、明確になったことを共通実践に生かす
- ・日常的な授業研究を進められるよう「授業づくりシート」を用いて、研究の重点を意識して取り組む
- ・学期に一回以上相互授業参観週間を設定する

② 校内職員研修の実施

- ・全職員が参加し、組織的に実施
（研究の重点の取組を紹介し合う、研修の成果を報告する、分析交流 など）

(3) よりよい実践を積み重ねていくための検証方法の具体化

児童の変容・取組の成果についての検証の方法・観点を明確化し、検証問題や児童の姿、アンケートなどを活用した検証を行い、その結果をもとに、さまざまな方策や研究推進体制の改善を図る。

① 単元末テスト・校内到達度調査

校内学習到達度調査（10月／3・5年 2月／1・2・4・6年）

- ・課題を把握し、その課題の改善が図られているかを、正答率・解答状況で検証
- ・校内到達度調査は、昨年度の校内到達度調査で課題になった点が改善されているか、根拠や筋道を明確に表現する力が身についているかどうかを検証するため、問題を自作するなど工夫して実施

② 家庭学習・漢字・計算ステップアップ週間

- ・家庭学習 … 学年目標時間の達成日数の変化で検証
- ・計 算 … 同一問題に取り組ませ、取組の前後での正答率・タイムの変化で検証
- ・漢 字 … 「まとめのテスト」を実施し、正答率で検証

③ 学校評価、児童・教職員アンケート、清湖できるよカード

- ・研究の重点にかかわる点について項目を設定し、児童・教職員評価の数値の変化で検証

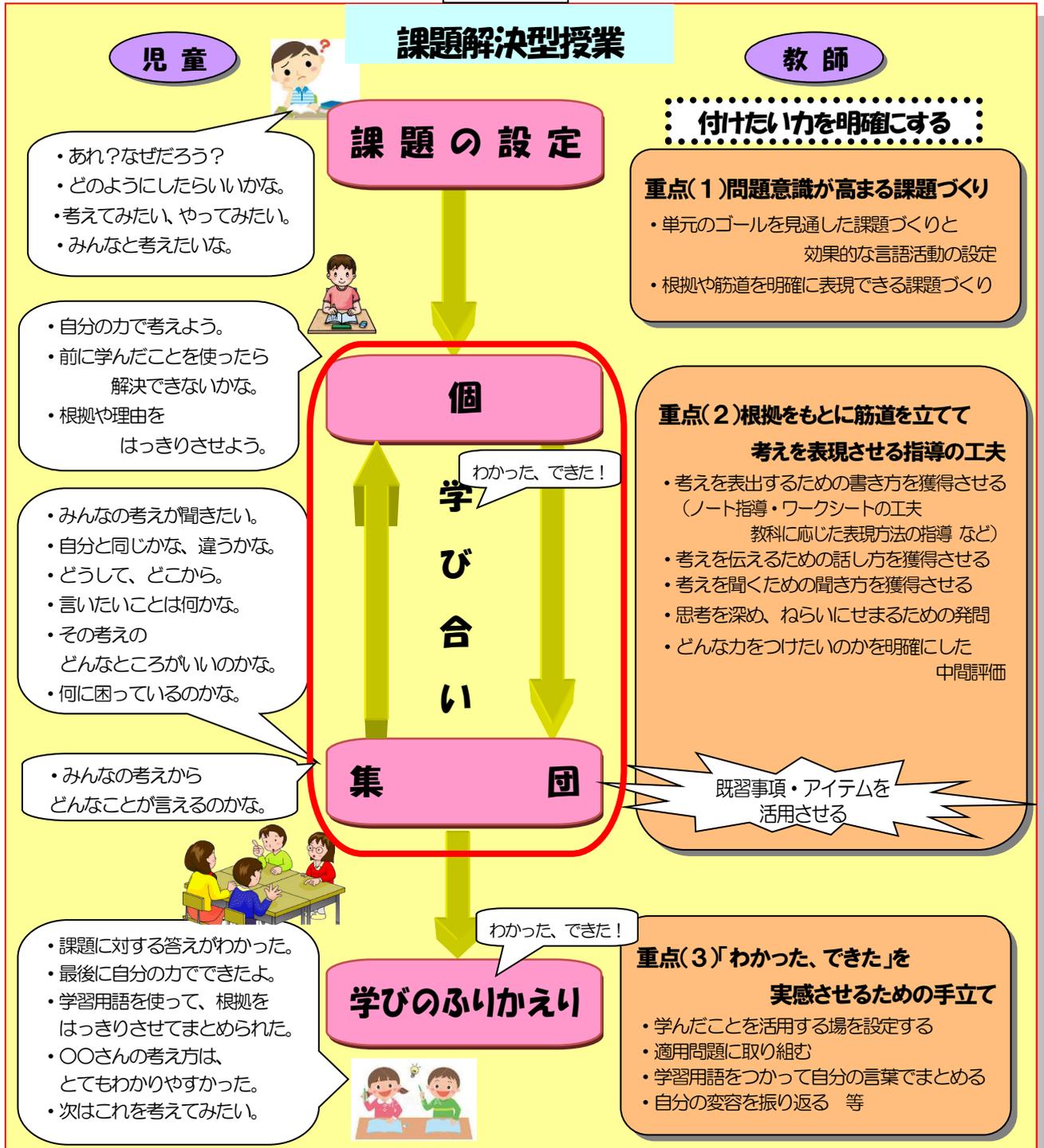
授業づくりシート		取り組む手立てとその振り返り(事前:黒 事後:赤)											重点の課題づくり ◎表現の工夫 ◎「わかった、できた」						
重点(限)		一番小さい正方形の辺の長さは24cmです。たては、6cmずつ増えるので6の倍数になります。横は、8cmずつ増えるので、8の倍数になります。正方形の辺の長さは等しいので、6と8の最小公倍数で考えると、一番小さい正方形の辺の長さは24cmです。																	
		児童の発言を「今のがもともになるね。」「数や公倍数ということばを入れて説明すると分かりやすいね」と、価値づけていくことで、適用問題で同じように数や言葉を入れて説明する児童が増えた。																	
教科	国語	書写(一画)	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育(一課)	道徳	学活	総合	英語	小計	委員会	児童会	クラブ	行事	合計
週計		--							--										
累計		--							--										
基計																			

週案に綴られた授業づくりシート

6. 研究構想図

自ら考え、学び合う子をめざして

学び合う力

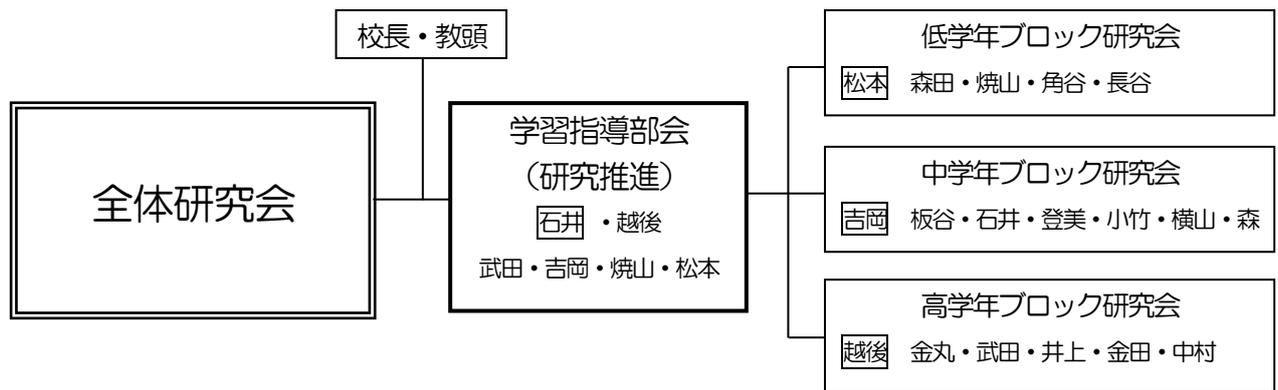


基礎基本の学力の定着

学習習慣の育成・基本的な生活習慣

あたたかな学級集団

7. 研究の組織と活動内容



・□は、各部会の責任者

- ・低・中・高学年の「ブロック研究会」を組織する。
- ・ブロック研究会は担任する学級が所属するブロックに所属する。
- ・全員が、校内研究授業を1回ずつ行う。
- ・各ブロック各1回全体研究授業を行い、校内研究の視点・重点の具体化について、共通理解の場とする。
- ・研究授業では、事前研究会・事後研究会をもつ。また、外部講師を招聘し、指導・助言をいただくことで研究の充実を図る。
- ・全体研究授業は、全職員が参加する。ブロック研究授業には、当該ブロック研究会に所属する職員が参加する。なお、他ブロックに所属の職員も、各研究授業を積極的に参観するように努める。

8. 年間活動計画案

会 月	学習指導部関係	研究授業等関係		
		低学年	中学年	高学年
4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織と役割分担 研究主題・研究の重点の共通理解 年間研究計画案作成 指導案形式の共通理解 			
5月	<ul style="list-style-type: none"> 提案授業 課題解決に向けた取り組みの検討 		全/石井 (算数)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・計算ステップアップ週間① 家庭学習・漢字ステップアップ週間② 	ブ/松本 (国語) ブ/角谷 (算数)	ブ/板谷 (算数)	全/金丸 (算数) ブ/越後 (社会)
7月	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート (学校評価) 検証問題の実施 ブロック研究会 (1学期のふり返り・取組内容の報告) 		ブ/吉岡 (道徳)	ブ/金田 (道徳)
8月	<ul style="list-style-type: none"> 指導主事訪問公開授業指導案検討 校内学習到達度調査 問題作成 全体研究会 (2学期に向けて・検証問題分析) 			
9月		全/焼山 (算数)		
10月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・計算ステップアップ週間③ 校内学習到達度調査 (3・5年) 実施、採点・分析 	ブ/森田 (国語) ブ/長谷 (音楽)	ブ/横山 (理科)	ブ/井上 (算数) ブ/武田 (体育)
11月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・漢字ステップアップ週間④ 		ブ/小竹 (算数)	ブ/中村 (図工)
指導主事学校訪問 (全員授業公開) 11/16				
12月	<ul style="list-style-type: none"> 検証問題の実施 ブロック研究会 (2学期のふり返り・取組内容の報告) 授業アンケート (学校評価) 		ブ/登美 (算数) ブ/森 (家庭)	
1月	<ul style="list-style-type: none"> 全体研究会 (3学期に向けて・検証問題分析) 研究の成果とまとめ 			
2月	<ul style="list-style-type: none"> 校内学習到達度調査 (1・2・4・6年) 実施、採点・分析 家庭学習・漢字ステップアップ週間⑤ 全体研究会 (今年度の振り返り・次年度にむけて) 			
3月	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要作成 研究紀要発行 			